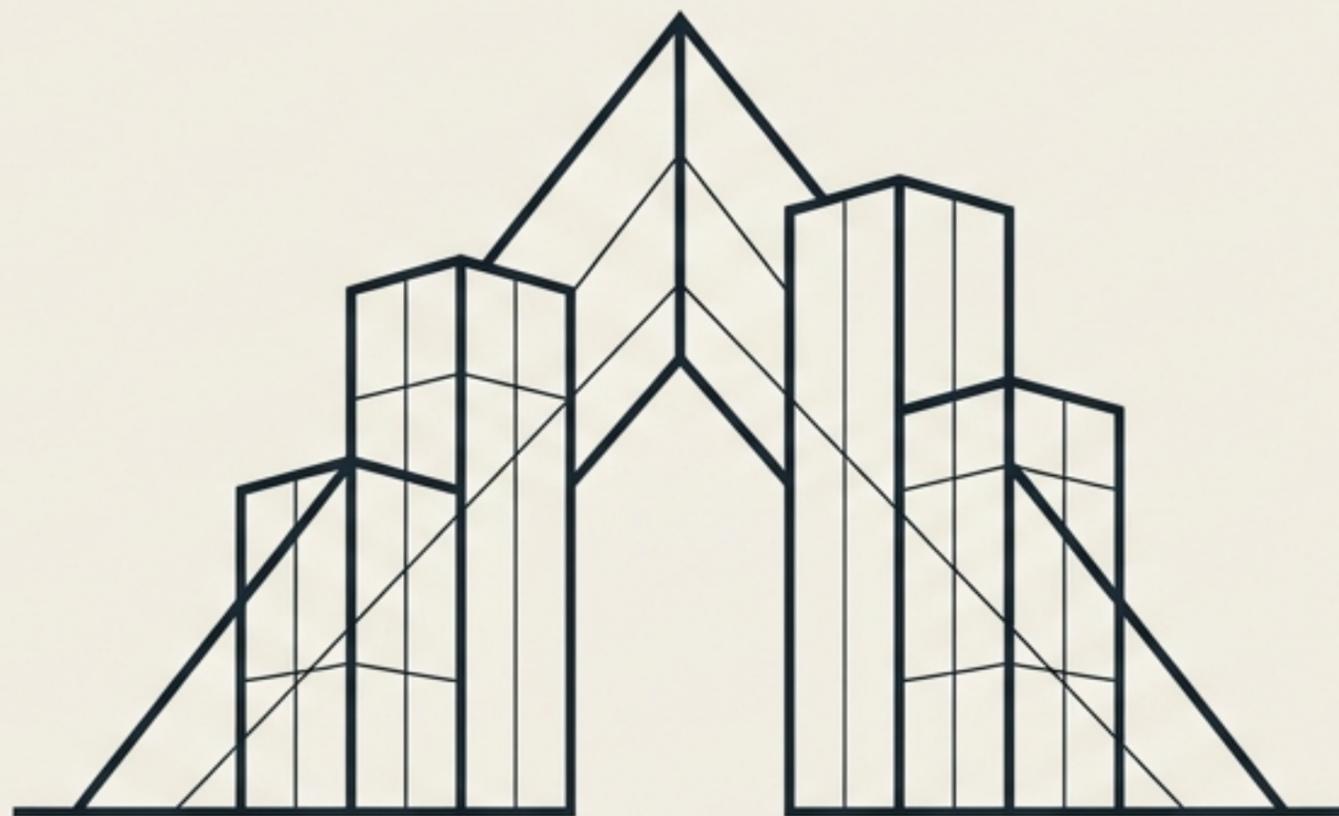


BEIJING, JANUARY 2026
EVENT REPORT

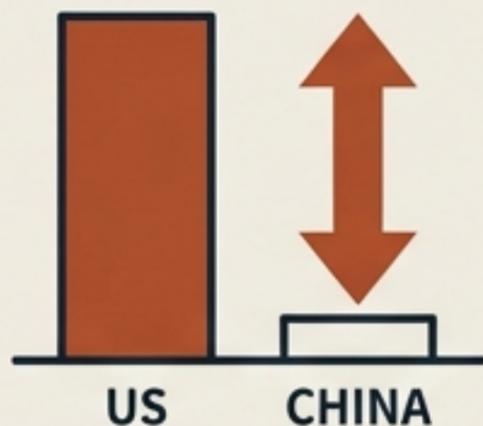


AGI-Next 2026：中国AIの現在地

中国トップAIリーダー4氏によるサミットからの戦略的洞察

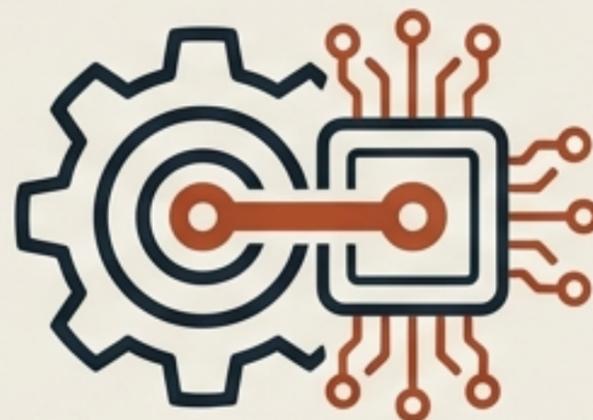
Zhipu (智譜) | Moonshot (月之暗面) | Alibaba Qwen (通義千問) | Tencent (騰訊)

2026年の現実：希少性が進化を駆動する



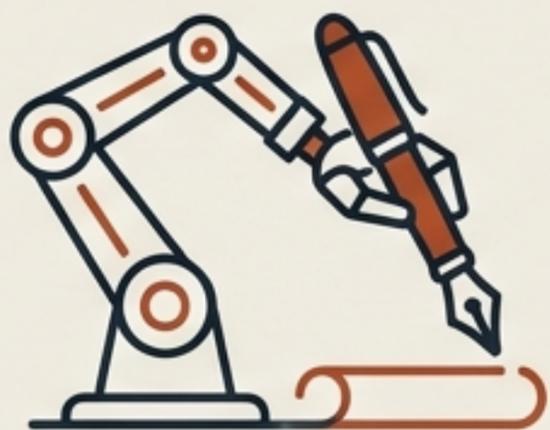
The Gap

米国は**1~2桁の計算資源**の優位性を維持。米国の計算資源は「**次世代研究**」に向けられる一方、中国は「**デリバリー（実用）**」に消費されている。



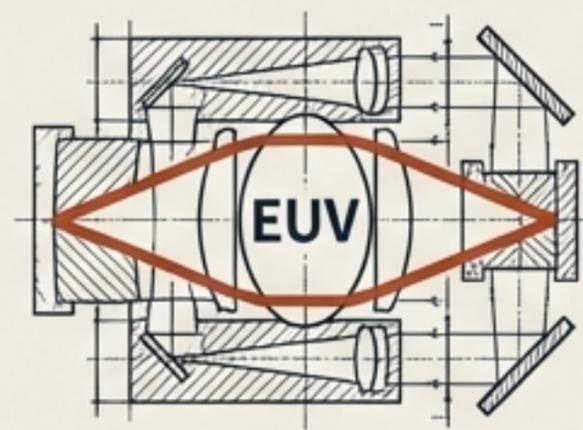
The Strategy

力づくのスケールリングから「**貧者のイノベーション** (Innovation of the Poor)」へ移行。極端なトークン効率化、ハード・ソフトの協調設計、小規模モデルの最適化。



The Goal

対話型インターフェースから、**1~2週間の自律的な人間レベルの作業**をこなす「**エージェント**」への移行。



The Constraint

主要なボトルネックは電力や人材ではなく、**リソグラフィ (EUV)** と**ソフトウェアエコシステムの成熟度**にある。

中国エコシステムの設計者たち



Tang Jie (Zhipu)

The Academic
Visionary

Focus: Native
Multimodality &
Sensory
Integration (感統)



**Yang Zhilin
(Moonshot)**

The Technical
Optimist

Focus: Optimizing
Scaling Laws &
Token Efficiency
(Kimi)



**Lin Junyang
(Alibaba Qwen)**

The Open Source
Pragmatist

Focus: Global
ecosystem &
Model-as-Product



**Yao Shunyu
(Tencent)**

The Application
Strategist

Focus: To-B
Integration &
Manufacturing
Replication

ハードな制約：計算資源とリソグラフィ



Data Reality

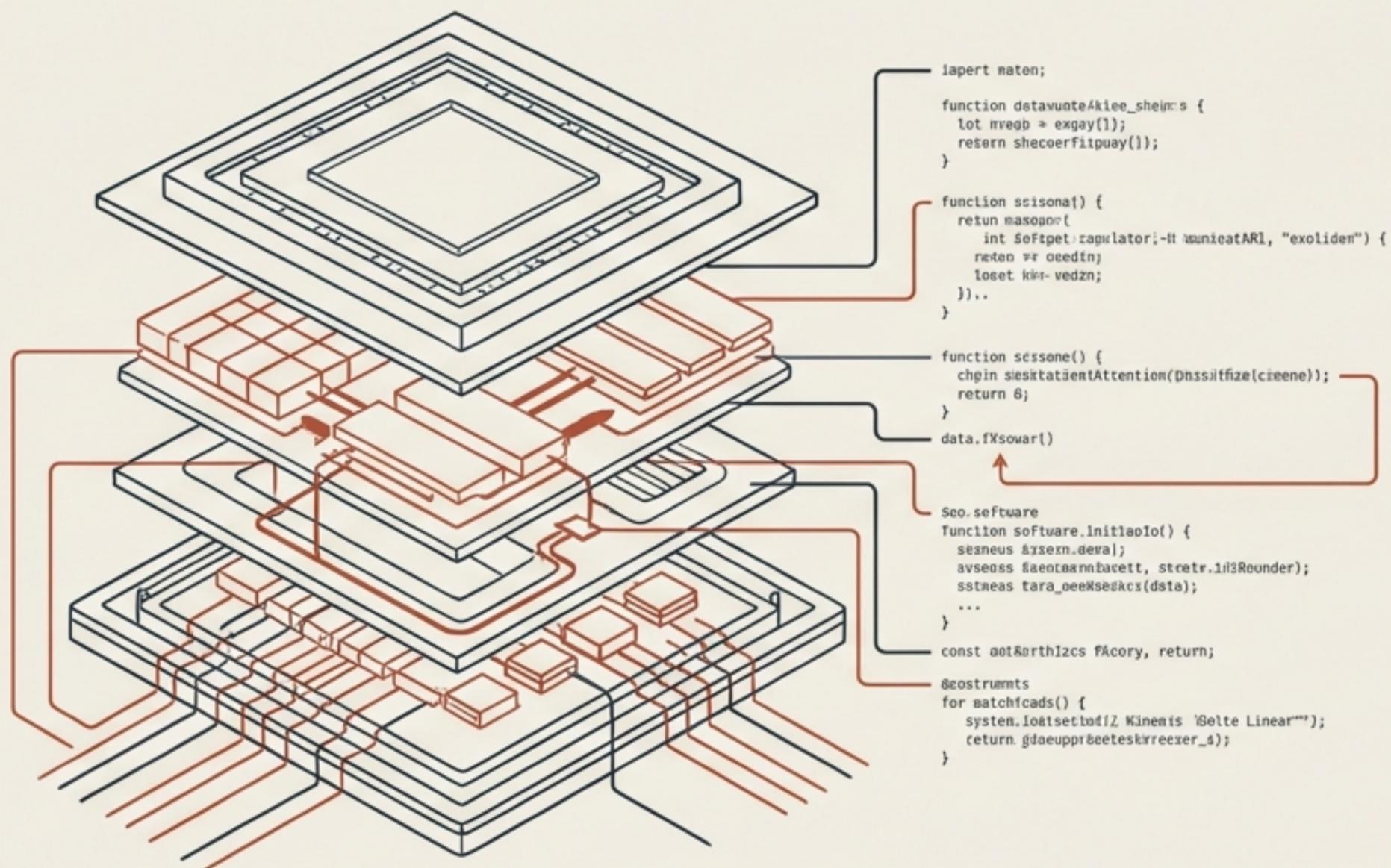
Lin Junyang氏によれば、米国の計算能力は中国を1~2桁上回る。米国の研究所は計算資源を将来のパラダイムに投資できるが、中国の研究所は現在のデリバリー要件を満たすために計算資源を使い果たしている。

Bottlenecks

電力やインフラは解決可能だが、生産能力（特にEUVリソグラフィ）とソフトウェアエコシステムが決定的な制約となっている。

「イノベーションは通常、富める者（米国）のゲームだが、貧しい者（中国）は効率を通じて革新しなければならない。富める者はGPUを浪費し、貧しい者はアルゴリズムを最適化する」 — Lin Junyang

欠乏から生まれるイノベーション



Hardware-Software Co-design (ハード・ソフト協調設計)

「役に立たないもの」を訓練する余裕はなく、インフラ利用率の極限までの最適化に集中している。

Innovation of the Poor (貧者のイノベーション)

- 制約のあるチップに特化したモデル開発。
- Moonshot (Kimi) の事例: 「Muon二次最適化」を使用し、トークン効率を倍増。
- アーキテクチャ革新: 「Kimi Linear (Delta Attention)」は、長期間のタスクにおいて完全なAttention機構を凌駕し、6~10倍の高速化を実現。

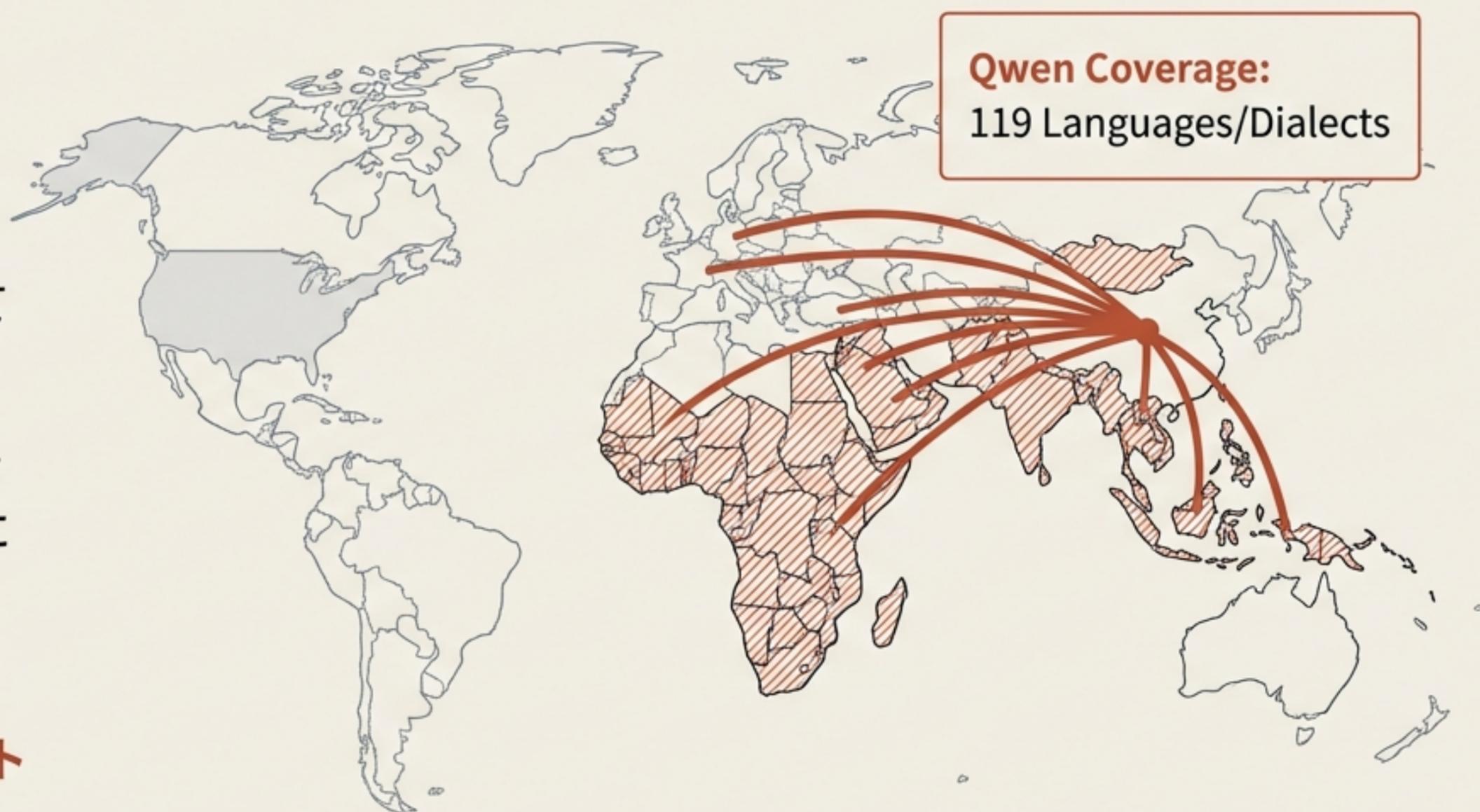
戦略兵器としてのオープンソース

Filling the Void

米国のフロンティアモデル（OpenAI など）が閉鎖的である一方、中国は世界の開発者エコシステムを取り込み、データフライホイールを構築している。

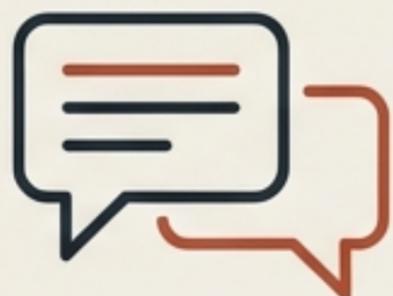
Qwenはウルドゥー語やアフリカの言語など、米国の巨人が無視する市場にサービスを提供。

QwenはOpenRouterでのトークン消費量が世界第2位に到達（サミット時点）。



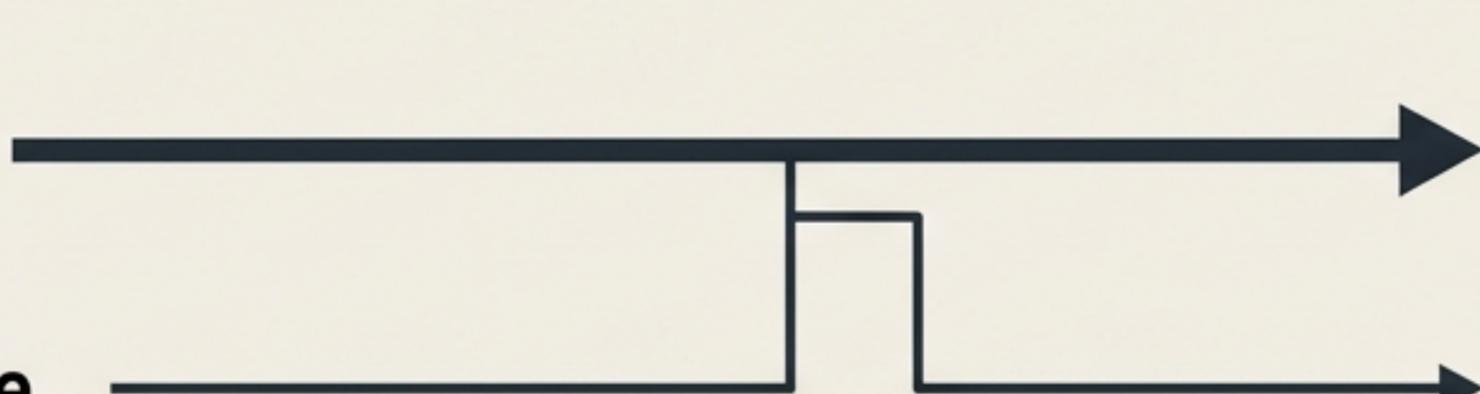
「全人類を助けたいのなら、アフリカの『ダムフォン』ユーザーを無視することはできない」

エージェント革命：「対話」から「仕事」へ



Current State

3-5 Hours reasoning.
Simple Tasks.



2026 Goal

1-2 Weeks Autonomous Work.
Maintaining complex software.

The Model IS the Product (模型即製品)

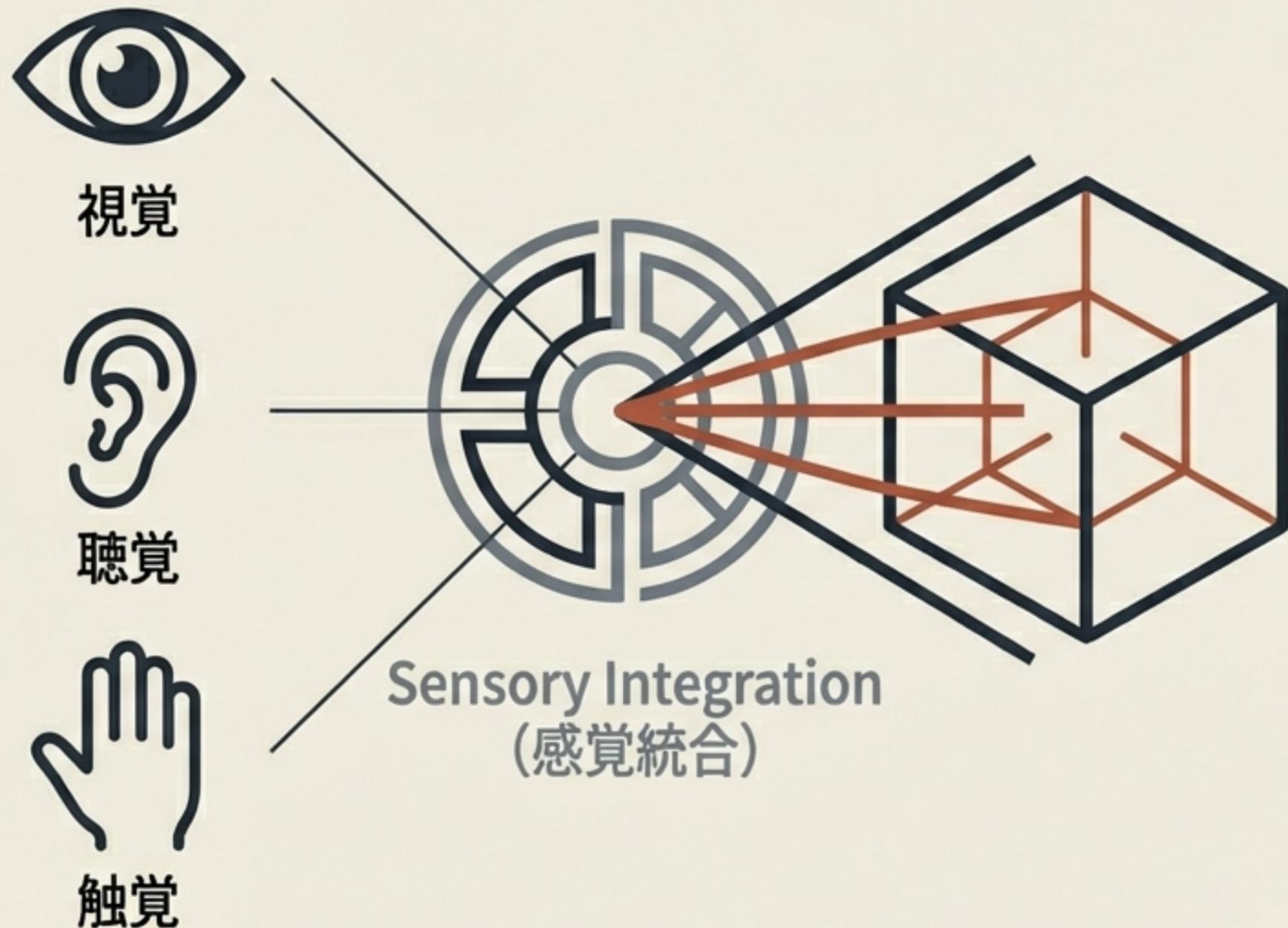
「ラッパーアプリ」を超え、エンドツーエンドのモデルエージェントへ。Lin Junyang氏は、モデルそのものが製品になると主張。

First Domain: Coding

「数学オリンピックの問題を解く」ことから、「SWE-benchのような複雑なソフトウェアプロジェクトの保守」へ移行。

Tencentの視点：大規模な内部データセットと多様な展開環境を持つ大手テック企業が有利。

ネイティブマルチモーダルと「感覚統合」



Tang Jie's Vision

人間はテキストと画像を別々に処理するのではなく、視覚・触覚・聴覚を統合して現実を知覚する。現在のモデルは「感覚統合不全」の状態にある。

Qwen Insight: Visual Understanding

エージェントがコンピュータ (GUI) を操作するためには、人間以上に空間関係 (上下左右) を理解する「目」が不可欠。

Photoshopの例:

空間関係を理解しないモデルは、人物を削除する際に背景を適切に補完できない。

市場のパラドックス：To-C 対 To-B



To-C (Consumer)

【中国の強み】

高い普及率と「スーパーアプリ」の潜在能力。
ユーザーはエンターテインメントや検索強化としてAIを容易に受け入れる。



To-B (Enterprise)

【中国の弱み】

低い支払い意欲。
米国に比べ未熟なSaaS文化。

The Solution: The 'Palantir' Model

Yang Qiang教授の提言：汎用モデルと企業の具体的ニーズのギャップを埋めるため、「オントロジー」と重厚なフロントエンドエンジニアリングを用いたPalantir型アプローチが必要。

文化的障壁：リスク回避



The Innovation Gap

米国のイノベーターは「パラダイムを変えるリスク」（例：初期のEV）を恐れない。一方、中国の研究者は「安全で実証された道」（例：事前学習の改善）を好む傾向がある。

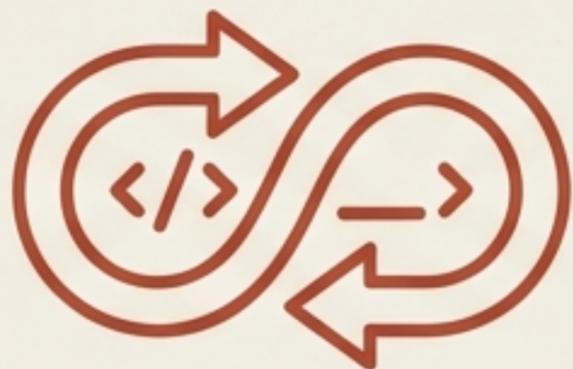
“

「中国には実証されたパラダイムを効率的に改善する人材は多いが、未知のものに賭ける人材が不足している」

希望：90年代・00年代生まれの世代（サミットのパネリストたち）は、シリコンバレー同様のリスクテイク精神を持ち始めている。

スケーリングの先へ：次なるパラダイム（2026-2027）

Autonomous Learning （自律学習）



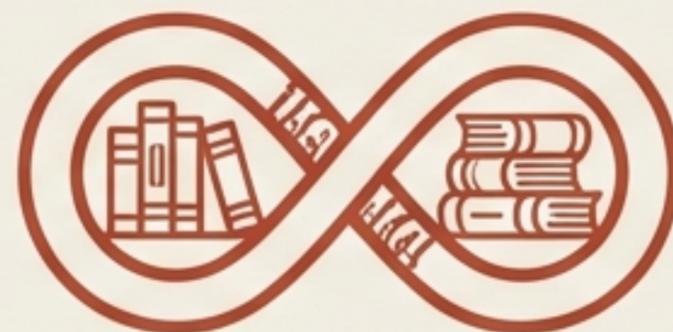
静的なデータではなく、ユーザーとの対話から学ぶシステム。モデルが自身のコードを書く（Cursor/Claudeのような）アプローチ。

System 2 Thinking （思考）



即時反応から「思考時間」への移行。自己反省と自己批判の能力。

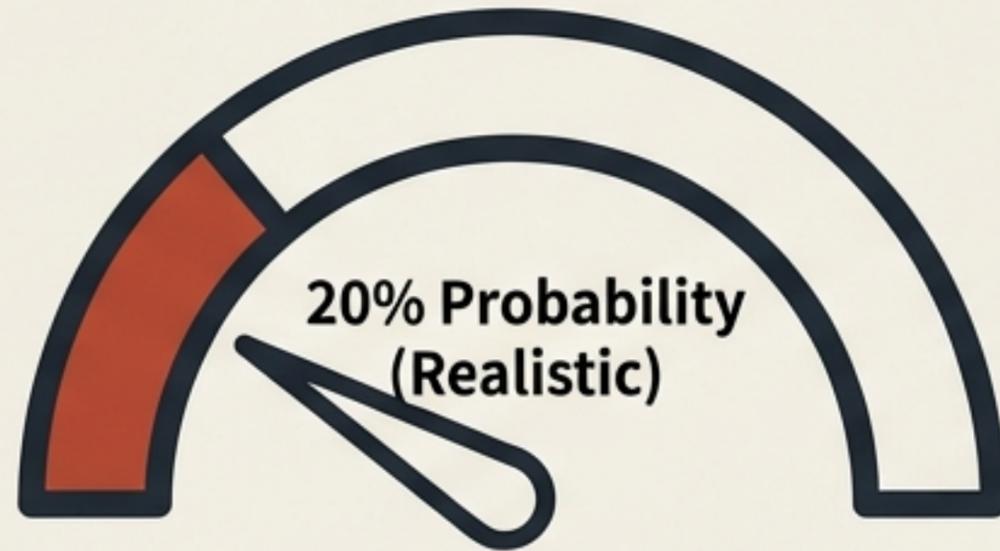
Civilizational Memory （文明的記憶）



Tang Jie氏の概念：人間の記憶（短期・長期）を超え、知識を生物学的限界を超えて保持する「第4の記憶レベル」。

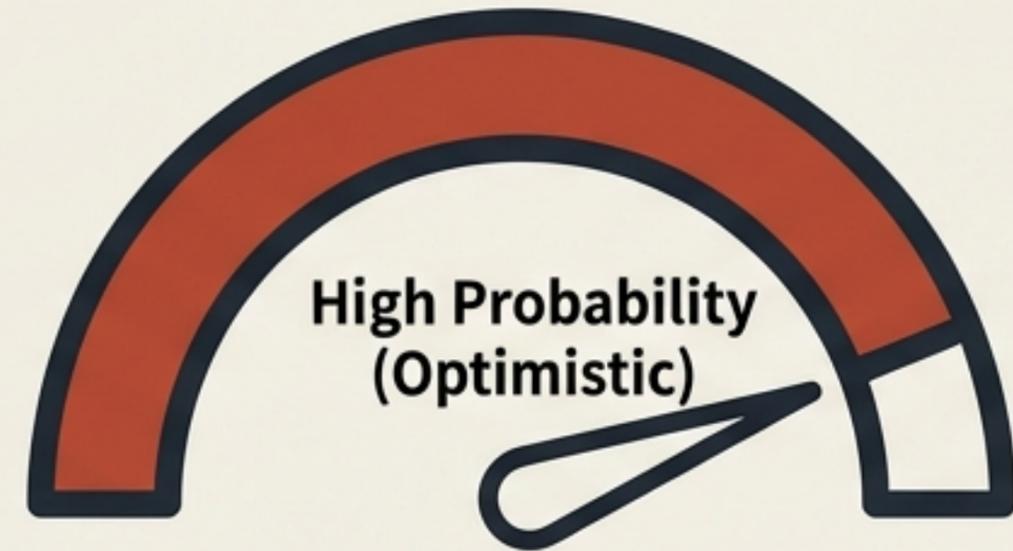
2026年の展望：中国はリードできるか？

Lin Junyang - Qwen



「貧困は変化を強いる」が、米国の歴史的蓄積と計算資源のギャップは大きい。

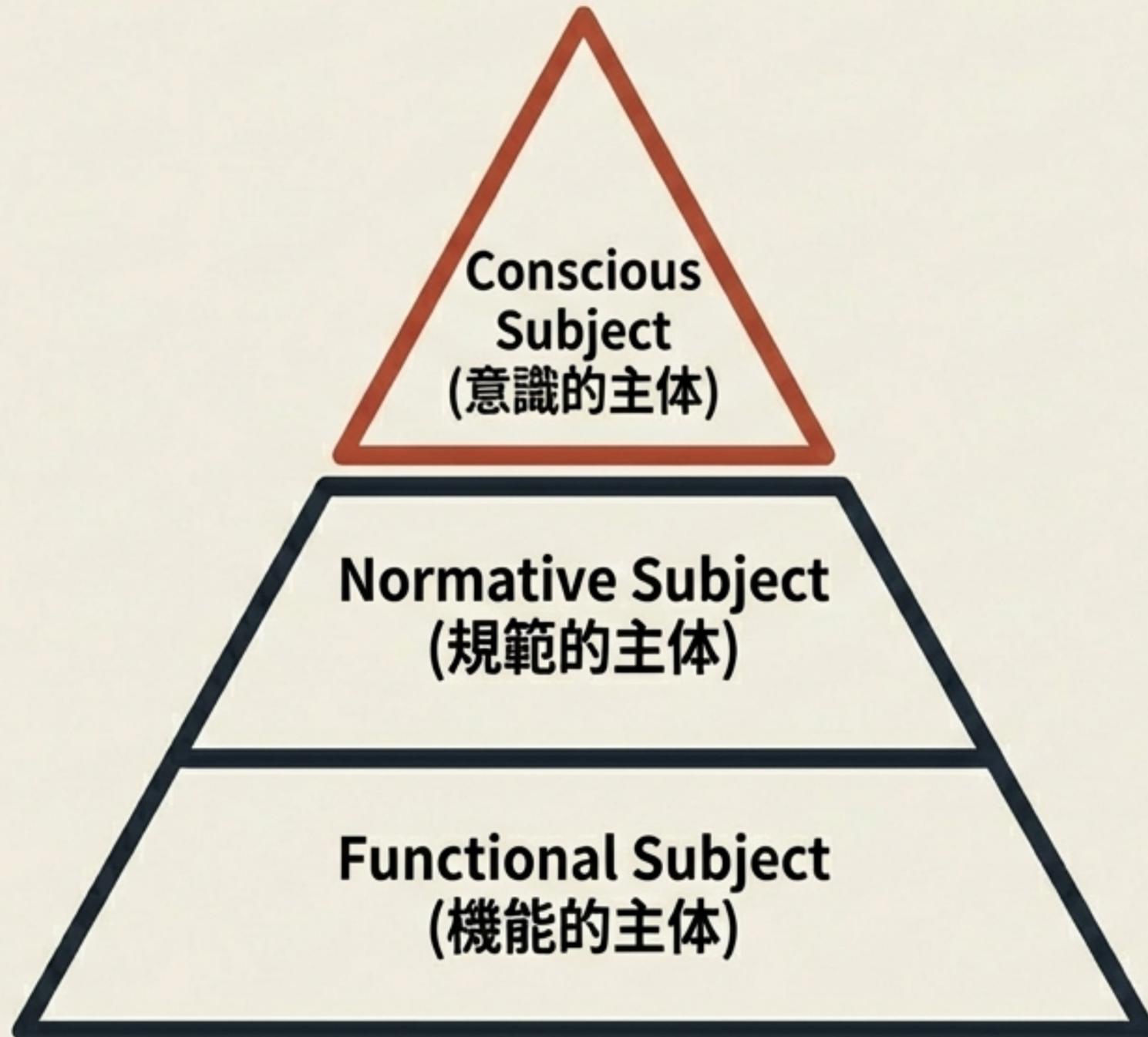
Yao Shunyu - Tencent



EVや製造業で見られた「複製速度」。パラダイムが定まれば、中国の実行速度が勝る。

Prerequisite (必須条件): リソグラフィのブレークスルー、または純粋な計算能力を回避する新しいソフトウェアパラダイム。

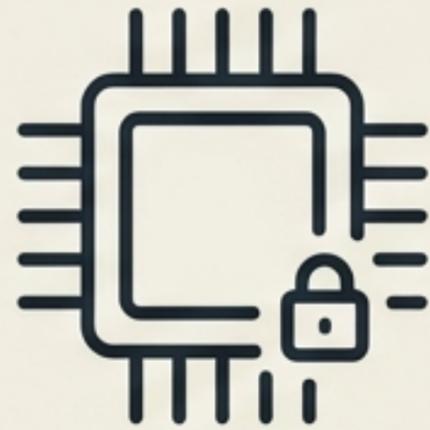
新しい起業家像：機能から責任へ



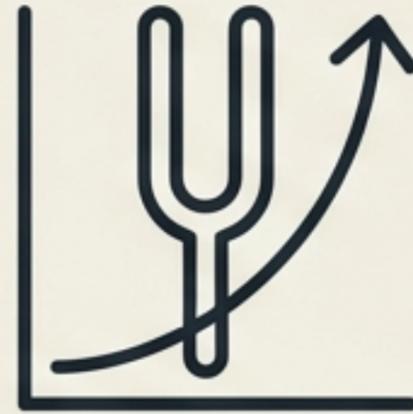
Professor Zhang Bo's Vision

- AIはすべてを定義し、起業家そのものも再定義する。
- AGI時代の起業家は単なるビジネスビルダーではなく、「**知能の統治者 (Governor of Intelligence)**」でなければならない。
- ミッションは「サービスの提供」から「**新種の整合性 (アライメント) の管理**」へと変貌する。

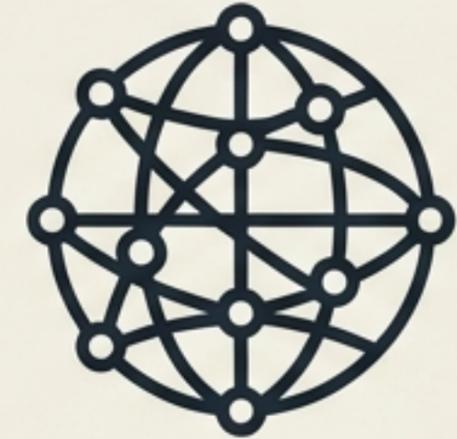
戦略的結論



Compute Gap



Extreme Efficiency



Global Long Tail

1. 計算資源のギャップは現実だが、それが極端な効率化を重視する独自のアーキテクチャ進化（**貧者のイノベーション**）を強制している。
2. 中国はオープンソースを通じたグローバル市場の「ロングテール」と、エージェントワークフローの「ロングホライズン」に賭けている。
3. リスク文化の変化（90年代以降の世代）が、中国が「追隨者」から「**革新者**」へと変わるための先行指標となる。